

# マイナビキャリアリサーチLab 飲食業レポート（2024年5月）

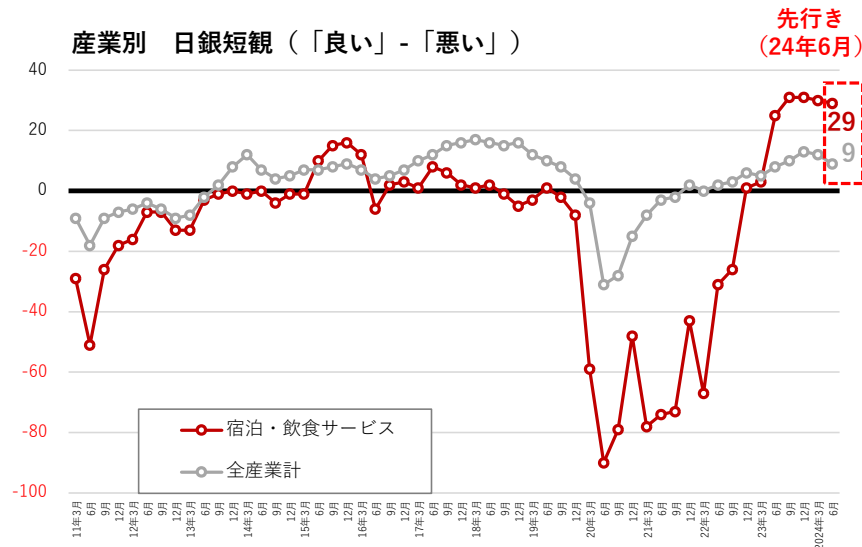
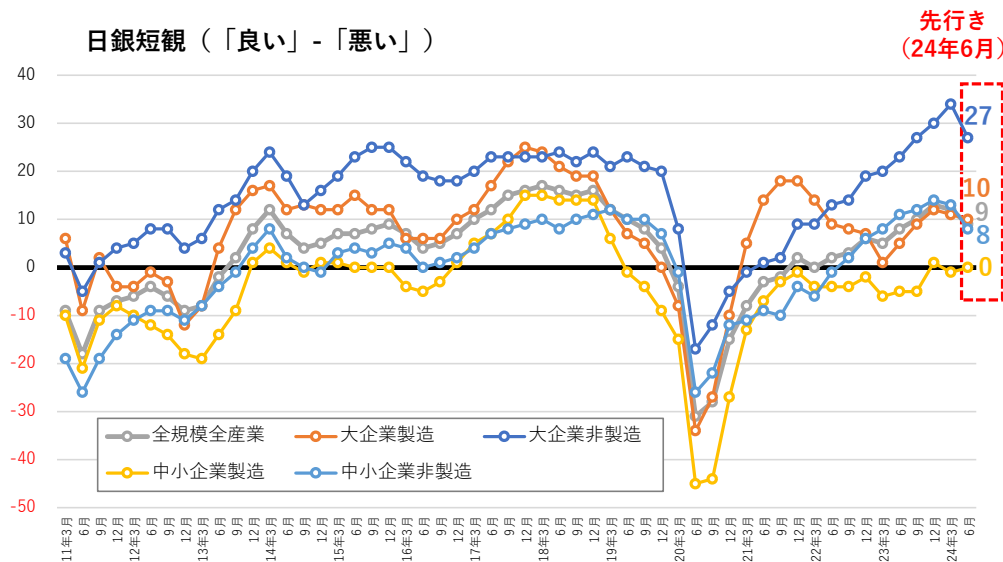
マイナビキャリアリサーチLab 編集部



これら資料は、作成日時時点で弊社が信頼に足ると思われる資料に基づいて作成しておりますが、弊社が実施していない調査などに関して情報の正確性を弊社が担保するものではありません。  
また、これら資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。  
ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。

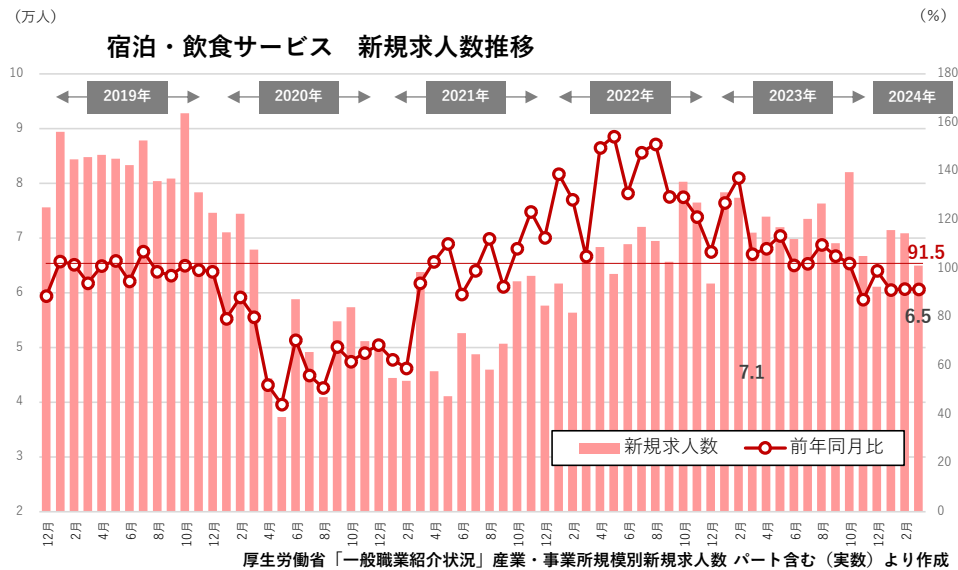
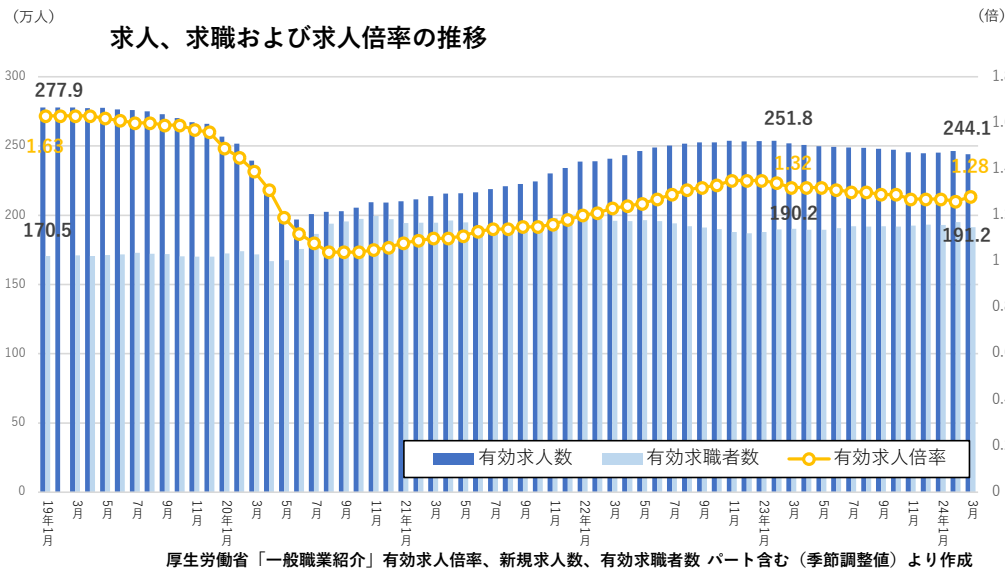
# 業況感は全体的に良好な水準を維持 先行きを展望すると改善傾向をたどる見込み

- ・企業の業況感は短観の業況判断DIをみると、3月は幾分悪化したものの、全体として良好な水準を維持している。製造業は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等から幾分悪化した。非製造業は経済活動の回復やインバウンド需要の増加、価格転嫁の進展から、個人消費関連業種を中心に幅広い業種で改善を続けた。（日本銀行「経済・物価情勢の展望2024年4月」）
- ・「宿泊・飲食サービス」の業況感は、22年12月以降プラスで推移し、24年3月は30と高水準。6月の先行きは29と下降の予測ではあるが、11年3月以降で最も高い水準で推移している。



# 有効求人倍率は1.28で横ばい傾向 宿泊・飲食サービスの新規求人数は前月比・前年同月比ともに減少。

- ・有効求人倍率はコロナ禍中と比較すると求人数の回復により徐々に増加していたが、直近は横ばいが続いている。2024年3月の数値をみると、有効求人倍率は1.28と、前月より0.02pt回復したものの、ここ半年は横ばいで推移している。有効求人数は244.1万人で前年同月比で7.6万人ほど減少。19年1月との比較でも全体で33.8万人減と、コロナ前の状況まで回復していない。有効求職者数は191.2万人で、前月比3.8万人減、前年同月比では1万人増となっていた。2019年1月比では20.7万人増となった。
- ・「宿泊・飲食サービス」の新規求人数は64,952人で前月比91.6%、前年同月比91.5%と前月比・前年同月比ともに減少。22年3月以降、新規求人数は回復傾向にあるものの、コロナ前の19年3月比では76.6%の水準に留まっている。

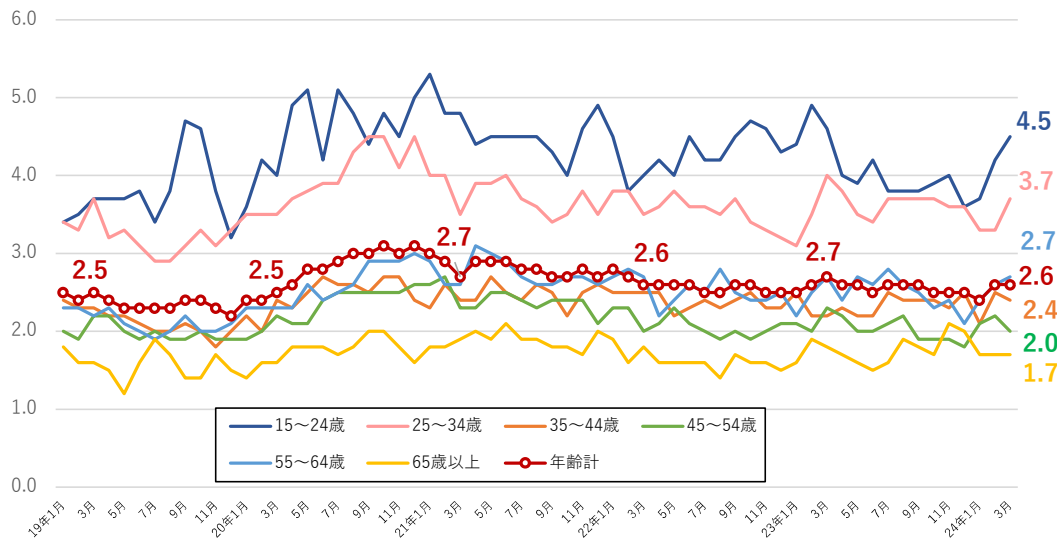


# 完全失業率は2024年3月時点で2.6%。 宿泊・飲食サービスの不足感は-70とコロナ前の人手不足感を超える。

・完全失業率は2020年末頃と比較すると、緩やかに改善がみられ、直近の2024年3月では2.6%となっている。年代別にみると15～24歳、25～34歳で改善が見られるほかは、横ばいかやや悪化している。しかしながら、人手不足感は依然高く、今後の完全失業率は横ばいで推移すると予想される。

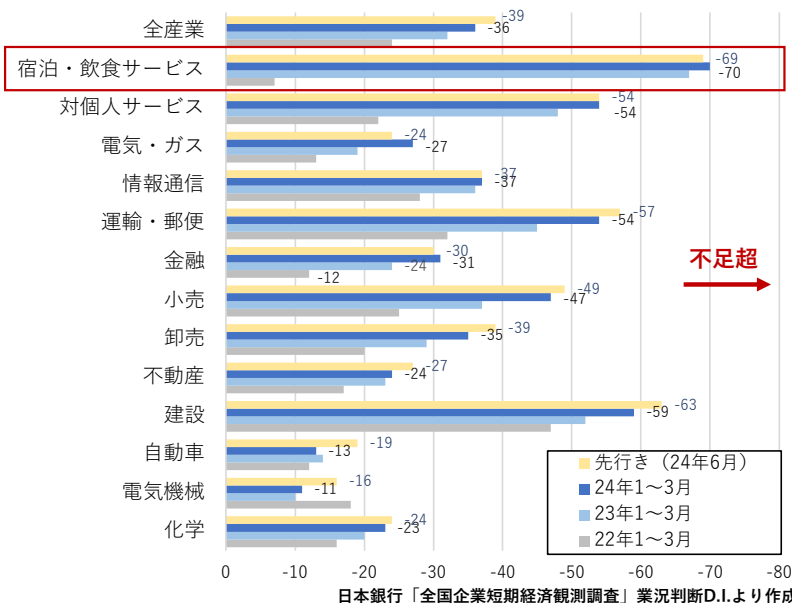
・「宿泊・飲食サービス」の雇用人員判断D.I.は全産業計を大きく上回り、-70と最も不足感が高い。先行きも-69で依然としてコロナ前の人手不足感を超えており、深刻な人手不足状況が慢性的に続いている。

完全失業率



総務省統計局「労働力調査調査」完全失業率 年齢階級別（季節調整値）より作成

雇用人員判断D.I. (過剰-不足)



日本銀行「全国企業短期経済観測調査」業況判断D.I.より作成

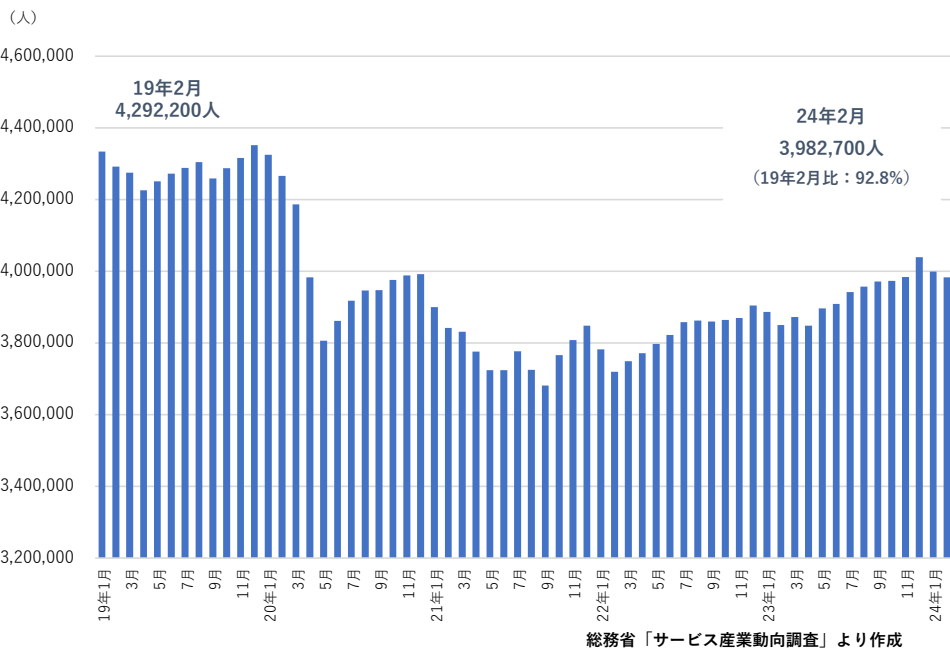
従事者数はコロナ禍による減少以降、増減を繰り返しコロナ前水準に至らず。  
2023年上半期の宿泊・飲食サービスの入職率・離職率はともに減少。

<飲食店従事者状況>

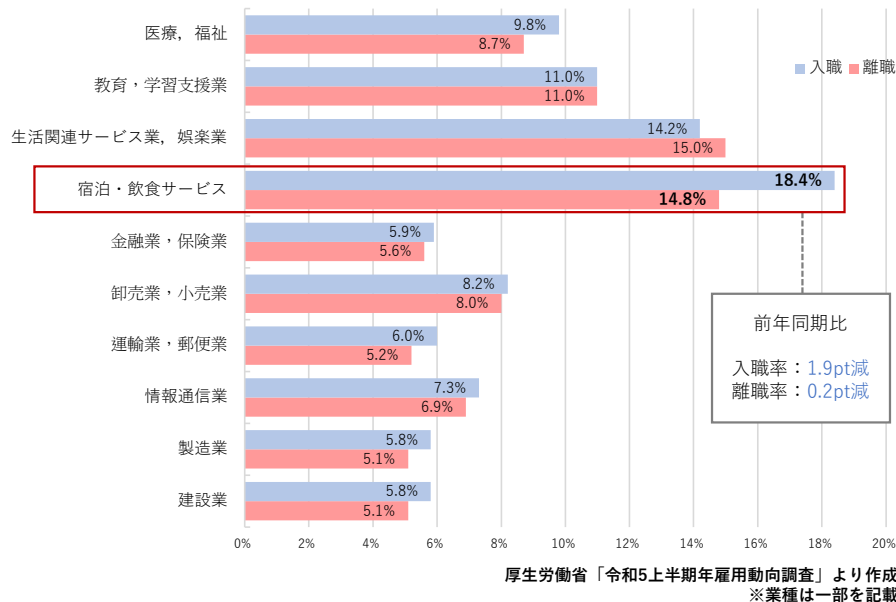
飲食店従事者数は2020年5月の大幅な減少後、22年3月以降より増加傾向にあるがコロナ前の水準には至っていない。直近2024年2月は3,982,700人で19年2月比で92.8%となった。

2023年上半期（1月～6月）の、宿泊・飲食サービスの入職率は18.4%（前年同期比：1.9pt減）、離職率は14.8%（前年同期比：0.2pt減）で、入職率・離職率ともに減少している。

飲食店従事者数推移



産業別 入職率と離職率（2023年上半期(1月～6月)）



# 24年3月は、土日の数が多い曜日まわりと歓送迎会需要の増加等で売上堅調。北陸新幹線延伸開業などで観光需要が好調

※飲食には様々な分野が含まれるが、本レポートでは主に「外食産業」を対象とする。

## <全体状況>

24年3月は前年より土日の数が2日多い曜日まわりとコロナ禍のない歓送迎会シーズンとなったことで客足堅調、外食全体の売上高は前年比**111.2%**、19年比**113.5%**となった。また、円安傾向の継続や、北陸新幹線延伸開業などもあり、インバウンドを中心に観光需要が好調であった。

## <業態別状況>

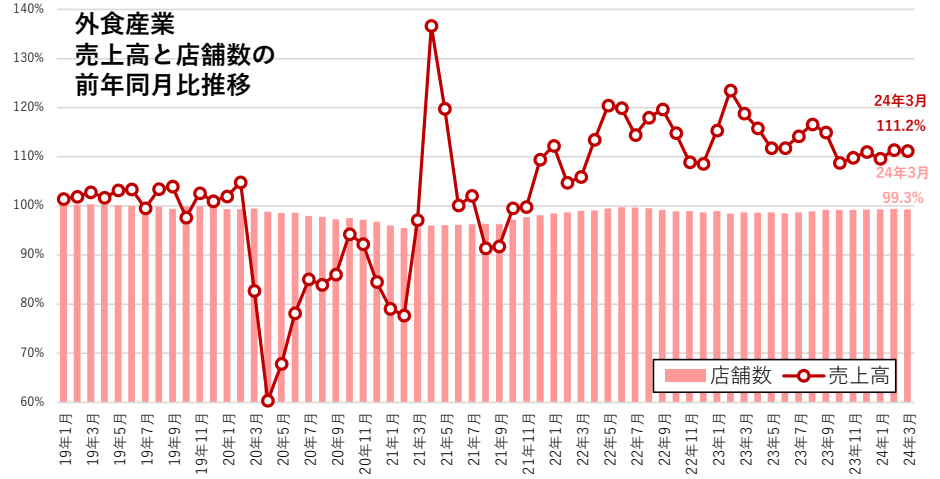
・ファーストフード：売上高は前年比で**110.7%**、19年比で**127.2%**。桜の開花が先送りとなり持ち帰り需要が伸び悩んだところもあったが、回転寿司は比較的堅調で、売上高は**102.9%**となった。

・ファミリーレストラン：売上高は前年比で**113.0%**、19年比で**104.1%**。「洋風」は前年より土日の多い曜日まわりによる集客堅調で売上高**113.6%**。「和風」は寒い日の鍋料理が好調で売上**112.5%**。「焼き肉」は団体客、食べ放題客、訪日外客など集客好調で売上高は前年同月比で**113.6%**。

・パブ・居酒屋：売上高は前年比で**106.2%**、19年比で**69.8%**。5年ぶりにコロナ禍の無い歓送迎会シーズンとなり、宴会も一部で数十人規模のものがみられるほど回復し、週末の好調にも支えられた。

・ディナーレストラン：売上高は前年比で**111.6%**、19年比で**99.7%**。引き続き訪日外国人の利用増加と客単価上昇により好調をキープ。

・喫茶：売上高は前年比で**110.0%**、19年比で**104.2%**。観光地を中心にインバウンド需要が堅調、百貨店や観光地、地下街、路面店も堅調であった。



## 業態別データ

	売上高		店舗数		客数		客単価	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
<b>全体</b>	111.2%	99.3%	106.6%	104.4%				
<b>ファーストフード</b>	110.7%	100.0%	106.0%	104.4%				
合計	110.4%	100.6%	105.5%	104.7%				
洋風	116.1%	101.7%	109.7%	105.8%				
和風	113.9%	98.3%	104.9%	108.6%				
麺類	102.9%	98.9%	99.8%	103.1%				
持ち帰り米飯/回転寿司	111.1%	99.4%	108.6%	102.3%				
その他	113.0%	98.3%	109.1%	103.6%				
<b>ファミリーレストラン</b>	113.6%	96.6%	110.3%	103.0%				
合計	112.5%	98.9%	106.1%	106.0%				
洋風	111.3%	101.5%	108.2%	102.8%				
和風	113.6%	100.7%	109.4%	103.8%				
中華	106.2%	97.1%	102.2%	103.9%				
<b>パブ/居酒屋</b>	106.5%	98.0%	99.9%	106.6%				
合計	106.0%	96.8%	103.6%	102.3%				
パブ・ビアホール	111.6%	97.0%	108.1%	103.2%				
居酒屋	110.0%	100.1%	103.2%	106.5%				
<b>ディナーレストラン (計)</b>	107.2%	103.6%	104.3%	102.8%				
合計								
喫茶 (計)								
その他 (計)								

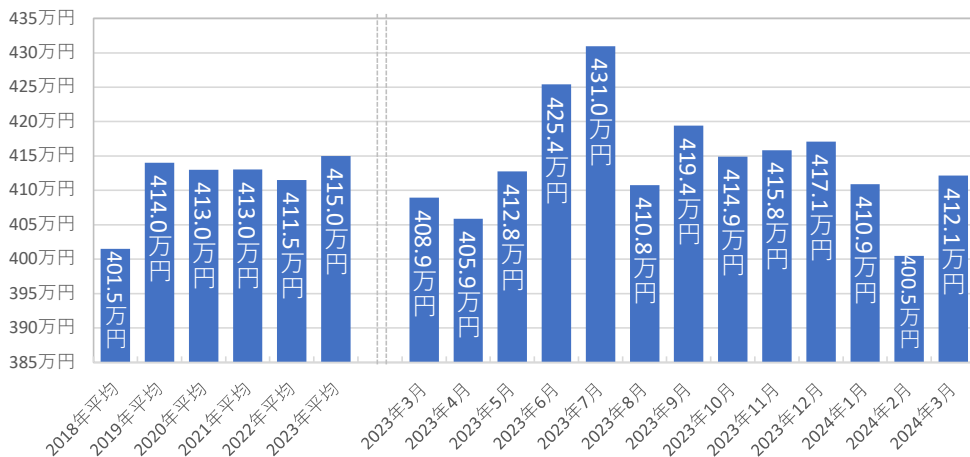
## (参考)2019年3月比

	売上高		店舗数	
	19年比	19年比	19年比	19年比
<b>全体</b>	113.5%	91.4%	127.2%	95.1%
<b>ファーストフード</b>	141.8%	99.7%	126.7%	100.3%
合計	115.0%	91.9%	108.8%	89.0%
洋風	112.1%	88.8%	104.1%	90.2%
和風	97.4%	84.0%	100.0%	90.4%
麺類	125.3%	109.5%	121.8%	100.6%
持ち帰り米飯/回転寿司	69.8%	67.5%	81.1%	80.3%
その他	65.2%	64.7%	99.7%	83.8%
<b>ファミリーレストラン</b>	104.2%	93.0%	118.2%	101.1%
合計				
洋風				
和風				
中華				
<b>パブ/居酒屋</b>				
合計				
パブ・ビアホール				
居酒屋				
<b>ディナーレストラン (計)</b>				
合計				
喫茶 (計)				
その他 (計)				

フードビジネスの正社員の平均初年度年収を見ると、2019年以降はほぼ横ばいで推移、直近2024年3月は412.1万円（前月比：11.6万円増、前年同月比：3.2万円増）となった。

求人数は2020年にコロナ禍で大きく減少したが、2022年以降は回復傾向にあり直近2024年3月は2018年平均と比べ108.9%とコロナ前の水準に回復している。

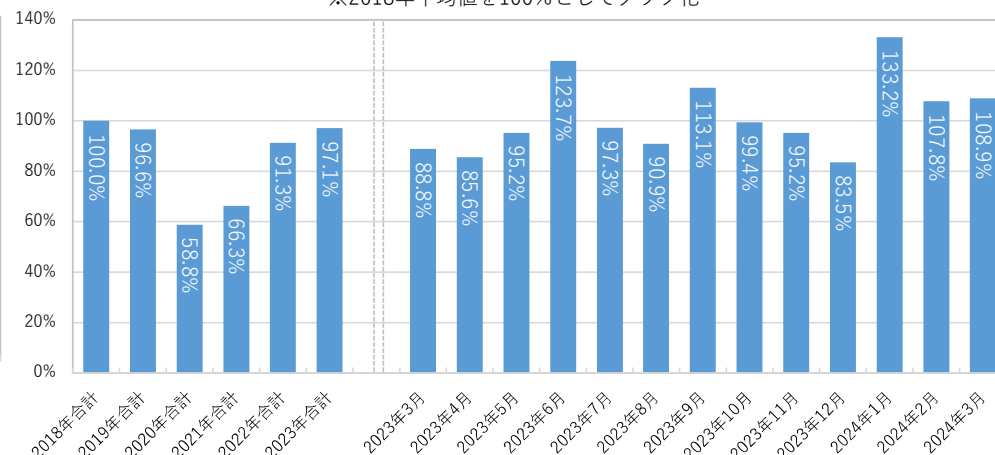
フードビジネスの平均初年度年収



マイナビ「正社員の平均初年度年収推移レポート」より作成

フードビジネスの求人数推移

※2018年平均値を100%としてグラフ化



マイナビ「正社員の求人数・応募数推移レポート」より作成

「正社員の初年度年収レポート」における年収集計方法

該当月における、総合転職情報サイト「マイナビ転職」に掲載開始された求人情報から、雇用形態が正社員以外のデータを除き集計。厚生労働省「国民生活基礎調査 所得の分布状況」を元に、所得金額上側1%を本レポートでは外れ値として設定。

マイナビ転職では、初年度年収は各求人ごとに幅をもって記載されているが、当レポートでは各求人に掲載されている初年度年収の下限と上限の中間の値を平均値として「初年度年収」を算出した。

「正社員の求人数・応募数推移レポート」における求人数集計方法

該当月における、弊社総合転職情報サイト「マイナビ転職」に掲載開始された求人情報から、雇用形態が正社員以外のデータを除き集計。